

解答

問一 ひいき

問二 A カ B ア C ウ

問三 「なせそう」平らなのかというところ」

問四 3

問五 ④ 小鳥が羽をすばやくはばたかせ、空高く飛んでいるようす。

⑤ 辺り一帯でたくさんの鳥の鳴き声が絶え間なく響いているようす。

問六 (1) それぞれに、ちゃんときまった性質があるということ。

(2) 人が何としてもそうしないではいられないこととはどんなことを考えさせるため。

問七 歩いたり物を言ったりすることは人にとって大切だと認めた上で、それよりもっと大切なことはないかと問い

かけることで、タルラの心を傷つけずに、弟子たちを真の答えに導くため。

問八 「タルラが」雄々しく立派に「答えました。」

問九 みんなの命のためには自分の足など惜しくないというタルラの言葉を聞いて、みんなのためには自分の命も惜し

まないタルラの父親の生き方をタルラが引き継いでくれたと思い、感極まったから。

問十 足や舌くなもの

問十一 (1) ブランド 正義を愛し、善いこと、正しいことを行うこと。

(2) セラバアド ほんとうのいいことが何かを考えること。

(3) 人は善いことや正しいことをこのむというブランドの意見は、まさにアラムハラドが子供たちに伝えたい

と思っていたことだった。だから、アラムハラドの考えをしっかりと理解したブランドのことを、アラムハラ

ドは好ましく思った。一方、人は道を求めないではいられないというセラバアドの意見が子供たちの中か

ら出てくるとは、アラムハラドは想定しておらず、セラバアドの聡明さに驚いた。

(3) 人の性質とは、善を愛し道を求めることであり、それは、人生のけわしいみちにおいて必ず自分の身を守

つてくれるので、決して忘れてはいけないということ。

問十二 (1) 銀河鉄道の夜 (2) ア・オ・ク

二

(1) 温故知新 (2) 異口同音 (3) 用意周到

三

(1) 粉 (2) 真 (3) 護衛 (4) 従順 (5) 街頭

四

(1) 9 (2) 4 (3) 6 (4) 3

五

問一 1 お聞きになって 2 ご覧になりましたか 3 おっしゃる

4 お伝え 5 お知らせする

問二 「先生、おはようございます。」先日はお見舞いに来てくださり、本当にありがとうございました。「心配をおか

けしましたが、おかげさまですっかり元気になりました。今日からまたがんばりますので、どうぞよろしくお願

いいたします。

一

問一 「えこひいき」とは「自分の気に入っているものだけの肩を持つ」という意味です。「学者のアラムハラドはセラ

バアドという子がすきでした。それでも「えこひいき」などはしません」というつながりから判断します。

問二 「先生、おはようございます。」先日はお見舞いに来てくださり、本当にありがとうございました。「心配をおか

けしましたが、おかげさまですっかり元気になりました。今日からまたがんばりますので、どうぞよろしくお願

いいたします。

解説

一

問一 「えこひいき」とは「自分の気に入っているものだけの肩を持つ」という意味です。「学者のアラムハラドはセラ

バアドという子がすきでした。それでも「えこひいき」などはしません」というつながりから判断します。

問二 「先生、おはようございます。」先日はお見舞いに来てくださり、本当にありがとうございました。「心配をおか

けしましたが、おかげさまですっかり元気になりました。今日からまたがんばりますので、どうぞよろしくお願

いいたします。

問二 「火というもの」の説明を探すと、空欄Cの少し後に「そういう、熱いものかわかそうとするもの、光るもの照らすととするもの、軽いもののぼろうとするもの、それを焰と呼ぶ」とあるので、この部分ががかりになります。

問三 「なぜそう平らだかとならば」をわかりやすく言い換える問題です。解答欄に「なぜそう」と書き出しが指定されているので、これに続けて「(なぜそう)平らなのか」となります。

問四 「だから仕方ない」の直前では、「それは火の性質」、「そういう性質のものを水と呼ぶ」のように、変えることのできないものの性質について、先生が生徒に述べています。

問五 ④ 小鳥が「青空を向こうへ飛んで行くときは一つのふるえる点のよう」なですから、小鳥が空高く飛んでいる様子を想像して書きます。

⑤ 「鳥のたくさん鳴いている林の中へ行けば、まるで雨が降っているよう」なのですから、小鳥の鳴き声が雨のよう聞こえる様子を想像してみましょう。

問六 (1) 問四でも考えたように「火」、「水」、「鳥」それぞれの終わりの部分には「火の性質だから仕方ない」、「そういう性質のものを水と呼ぶのだから仕方ない」、「それは生まれつきなのだ」とあるので、共通点はすぐにわかります。

(2) 傍線部がないために答えに使える部分を探すのは大変ですが、「火」、「水」、「鳥」の説明が終わりそれらについてまとめられた部分を読むと「人はどういうことがしないではいられないだろう。人が何としてもそうしないではいられないことは、一体どういう事だろう。考えてごらん」とあるので、この部分を使ってまとめます。

問七 タルラの答えに対して、アラムハラドはすぐ後の返事のなかで「たしかに人は歩かないではいられない、また物を言わないではいられない。けれども人にはそれよりもっと大切なものがないだろうか。むずかしいけれども考えてごらん」と言い、タルラの答えを認めながらも、もっと考えてごらんとさらなる思考をうながしているのです。

問八 タルラが「私は飢饉でみんなが死ぬとき、もし私の足が無くなることで飢饉がやむなら、足を切っても口惜しくありません」と言った時の様子を「獅子のように」とたとえています。この会話内容から堂々として立派な感じが読み取れます。それを解答欄に合うように記述しましょう。

問九 タルラの言葉にアラムハラドなぜ泣きそうになったのでしょうか。それは傍線部直後のアラムハラド自身の会話に「お前のお父さんは七年前の不作のとき、祭壇に上って九日祈りつづけられた。お前のお父さんはみんなのためには命も惜しくなかったのだ」とあります。この内容は今まさにタルラが言ったことと同じなので、父の生き方を受け継いだことがわかり感動したのです。

問十 「歩くことよりも物を言うことよりもっとしないではいられないこと」と同じ内容として、少し前の同じくアラムハラドの会話に「足や舌とも取りかえるほどもっと大切なもの」とあります。

問十一 (1) ブランダの言いたいことは、アラムハラドが「人は善いこと、正しいことをこのむく人の正義を愛する」とは、ちょうど鳥のうたわなないでいられないと同じだ」と代弁しています。セララバアドの言いたいことは、「人はほんとうのいいことが何だかを考えないでいられないと思います」と自分で述べています。

(2) ブランダの答えに対して「そうだ。私がそう言おうと思っていたら決してこれを忘れてはいけません」と言っているように、アラムハラドは自分の考えていたお手本のような答えだと好ましく感じています。一方、セララバアドの答えに対してはしばらく眼をつぶった後、眼をひらいて「うん、そうだと決まっていたけれどいい」と言っています。アラムハラドはセララバアドの答えを認めています、あまりにも予想もしなかった答えだったので、冷静に対処しながらも、驚いているのです。

(3) アラムハラドの伝えようとしていることは、彼の最後の会話に「人は善を愛し道を求めないではいられない。それが人の性質だ。これから人生という非常なかわしいみちを歩かなければならない。そのどこを通るときも決して今の二つを忘れてはいけません。それはおまえたちを守る」とあります。

問十二 (1) 宮沢賢治の作品には「銀河鉄道の夜」、「風の又三郎」、「注文の多い料理店」、「グスコブドリの伝記」、「どんぐりと山猫」、「春と修羅」などがあります。

(2) 宮沢賢治は、岩手県花巻生まれ。農学者として農民の指導にもあたりました。イーハトーブとは、賢治の心の中の理想郷を指していると言われています。

